

北九州市立東朽網小学校
学校だより



学校教育目標

徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな実践力のある子どもの育成

—こんな子どもたちに育てたい—
自分が好き・友達が好き・先生が好き・学校が好き

○ やさしく、仲良く助け合う【いじめ〇】
(徳)

豊かな心とたくましく生きる力をもつ子ども

○ かしこく【知】

進んで学び、よく聞き、深く考え、表現できる子ども

学力特集号 平成29年11月発行(文責)校長 井津 京香

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。特に、言語知識理解の基礎はできていた。また、読む力を問う問題などは、全国平均正答率を大きく上回っていた。 ・書く力や話す、聞く力を問う問題に課題があり、今後、重点的に取り組む必要がある。
国語B	・全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。特に、目的や意図に応じて書く問題や、読む力を問う問題などは、全国平均正答率をやや上回っていた。
算数A	・全国平均正答率をやや下回っていたが、どの観点でも、全国平均正答率に近い正答率になっていた。特に図形領域は、全国平均正答率を大きく上回っていた。
算数B	・全国平均正答率をやや下回っていたが、どの観点でも、全国平均を超える正答率が、それに近い正答率になっていた。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・生活習慣については、5年生の時よりも、就寝時間が遅くなっている児童が増えている。その原因として、テレビ・ゲーム・スマホなどへの接触時間の増加が考えられる。 ・家庭での学習時間は、5年生の時と比べると増えている。年度当初からの声かけと計画的な取組が影響しているものと考えられる。 ・話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすること、また、自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識をもっている児童が少なからずいる。積極的に話し合い活動に取り組む必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎学力向上推進教員のモデル授業を基に、全職員で研修をおこない、自らの授業をふり返ることで、授業力のさらなる向上を図る。
◎若年教員を中心に、「授業改善ハンドブック」「授業改善シート」を活用し、算数科を中心に、日々の授業を5つのポイントから検証することにより、授業力の向上を図る。
◎「話す」「聞く」「書く」ことの習慣化 ・一分間スピーチの実施や、児童相互の意見の交流や、考えを文章化する学習の場を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎宿題のスタンダード化 ・「家庭学習のススメ」を活用して、家庭学習時間(低学年20~30分、中学年30~40分、高学年50~60分)を設定する。
・「家庭学習チャレンジブック」を活用して、家庭と連携しながら、家庭学習を進める。
・長期休業日中の宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。
・高学年を中心に、自主学習ノートづくり(国語科や算数科を中心に、授業内容のふり返りや、発展的な学習)に取り組む。
◎全国学力・学習状況調査の課題や今後の取組などを保護者に周知する。 ・学校便り、学級通信等で取組を知らせる。